

KBS
케이बीएस株式会社

www.kbsjapan.com

【社内報ナルゲ】

날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。



vol. **39**
January 2008

40 周年記念特集号

HAPPY NEW YEAR!!

Frohes Neues Jahr

Bonne année

Feliz año nuevo

С НОВЫМ ГОДОМ!

恭賀新禧

あけましておめでとうございます

नयासार मुबारक ही !

새해 복 많이 받으세요

恭賀新禧

အသံထူကုန်

創業40周年のごあいさつ



ケイビーエス株式会社は、おかげさまで2008年1月、創業40周年を迎えることになりました。

これもひとえに日ごろより当社とお取引いただいておりますお客様をはじめ、様々なご支援をいただいております関係各位のご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

当社は、1968年1月に当時非常に少なかったハングルの印刷・出版会社として創業しました。創業時の社名である「僑文社」とは、創業者である高仁鳳初代社長（現会長）が在日韓国人であることから、在日僑胞の印刷会社という意味で名づけられました。

当社は、創業当初より、高仁鳳初代社長の「하면 된다 (成せばなる)」という想いととも、多言語印刷において常に新しいことに挑戦し、成長してまいりました。

当時の日本社会においては、ハングルの需要はまだ少なく、取引先は在日韓国系の企業や団体、個人がほとんどでしたが、グローバル時代の到来とともに、徐々にその需要が増してゆき、1982年には、世界で初めてハングル電算写植機を導入し、角川書店の「朝鮮語大辞典」の組版を請け負いました。また1984年には、世界初の日・英・中・韓の4ヶ国語同時電算出力に成功し、多言語印刷のパイオニアとしてその実力を確かなものとなりました。

1989年12月に、僑文社からその頭文字をとったケイビーエス株式会社に改組し、ハングルだけでなく、多言語を取り扱う専門会社として再出発します。

同じ頃に現在の組版の主流であるMacintosh DTPシステムを導入、1994年には日本経済新聞や、朝日新聞等のマスコミに当社のMac多言語組版システムが紹介され、業界の注目を集めました。また、インターネットにも早くから目をつけ、1996年に自社ホームページを開設し、多言語ホームページの制作を開始します。

現在では、印刷物に限らず、ソフトウェアのローカライズやHTML、フラッシュ、CGI・PHP等のウェブアプリケーション、ナレーションや映像字幕等、さまざまなメディアの多言語化に対応し、さらなる業務の拡大に努めています。

40周年を迎え、改めて現在会社を取り巻く環境を展望してみますと、ハードウェア・ソフトウェアの高機能化・低価格化によって、今や、多言語組版の技術的・費用的なハードルはかなり低くなっており、多くの業者が新規参入しております。

その特殊性・専門性により、これまでほとんど競争にさらされることのなかった当社も、厳しい競争を勝ち抜き、生き残る必要があります。過去の実績に驕らず、研究開発の手を緩めることなく、合理化によるコストダウンを図ると同時に、翻訳の質の向上に努め、これからもお客様から必要とされる企業でありたいと思います。

個人的に、私もケイビーエスと同じ1968年生まれで、幼少の頃よりこの会社の成長を身近に感じてきたこともあり、ケイビーエスがいかに多くの方々の応援をいただき、また多くの方々から必要とされてきたことを十分承知しております。

これからも皆様のニーズにお応えできるよう、社員一丸となって精進して参る所存ですので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

ケイビーエス株式会社 代表取締役

高仁鳳



創業40周年に当たって

近畿グラフィックコミュニケーションズ工業組合
理事長 松井 博司

創業40周年を迎えられて誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、ケイビーエスさんとお知り合いになりましたのは結構古くからになります。現在の所在地である勝山通りに移転されてまもなくですから1980年前後と記憶しています。以前は時々ハングルの写植をお願いしていました。そのころからケイビーエスさんは変革に継ぐ変革を繰り返して現在に発展されたのだと思います。まさに今と言うベンチャーです。好奇心の強い高会長は昔から機械をさわることが大好きでハングル語の電算写植化を取り組んで実用化され、デジタル化を迎えた90年代はコンピュータを勉強され、多言語組版

システムの開発に成功されました。更に、ホームページの開設は我々の業界では一番早く、会長の個人的なサイトはとて有名です。そんな会長とは、大阪DTP協同組合時代から度々韓国へ一緒させて頂きました。ピマツコルにあるピンデット屋さんで食べた素朴な味のピンデットの旨いこと、今でも鮮明に覚えています。

時代は進んで今はご子息が社長となられて立派に事業を引き継がれています。新しい感性で事業の幅をも拡大している中で、更に、多言語コミュニケーターとして発展されますことと、最後になりましたがケイビーエスの皆様のご健康とご多幸を祈念します。



ケイビーエス株式会社創業40周年に寄せて 「地域貢献とハミョンテンダ」

大阪商工会議所東成・生野支部異業種交流会フォーラム・アイ
前代表幹事 岡田 光司

創業40周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

ケイビーエス社様には大阪商工会議所東成・生野支部異業種交流会フォーラム・アイ（F I）設立時から関わって頂いております。これまでに多大な貢献をしてもらっています。

多言語スペース「まだん」は会合に使わせて頂いています。韓国語講座も共同で始めさせてもらいました。全国から多数を集める「自転車では生野を巡る」催しでは中心的な役割を果たして頂いています。これら全て地場に根ざした企業として、地域貢献を念頭に置かれて経営なされている賜物です。

創業40周年を迎えられるこの機に、F Iへの数々のご貢献、ひい

ては地域へのご貢献にあらためてお礼申し上げます。ありがとうございます。

個人的には、尊敬する高仁鳳会長に日頃から薫陶を受けています。高会長が常々口になされる「ハミョンテンダ（なせばなる）」は同じ経営者として、時には後向きになりそうな気持ちを、再び奮い立たせてくれます。その「ハミョンテンダ」の精神は高允男社長の下、計画性をも加えてさらに深く社内に行き渡っています。

「地域貢献」の姿勢と「ハミョンテンダ」の精神、この二つがある限り、ケイビーエス社様のご隆盛に疑いはありません。



「創業40周年」おめでとうございます。

在日本大韓国民団大阪府地方本部
副局長兼文教部長 鄭 炳 采

私は1976年に僑文社（当時）に入社し20年間お世話になりました。この間、印刷業界は荒波にもまれ、多くの写植・印刷関連会社が廃業を余儀なくされましたが、高仁鳳会長は電算写植、リョービのレックス、マックと時代を先取りし、今日の「多言語はケイビーエス」を築かれました。

当時、会長の母校・白頭学院の자랑（自慢）を何度も聞かされました。結局、子ども全員を建国小・中学校へ通わせ、私自身も民族教育の大切さ、本名へのこだわりを学びました。感謝しています。

私はその後、在日韓国人の子どもたちに民族教育を広めたくて民団へ転職しました。

高会長には、その誠実さ、先見の明、研究熱心さ、民族心ゆえに、多くのファンがいますが、私もその一人です。

在日社会も企業も、社会の急激な変化により厳しい状況にありますが、ケイビーエスが高允男社長のもと、ますます存在感のある企業となることを心から期待しています。私も在日社会の活性化を目指してがんばります。



40周年の御祝いの言葉

ゴールド工業株式会社

代表取締役社長 村田 賢太郎

40周年を迎えられ、誠におめでとうございます、心よりお祝い申し上げます。

KBS様は皆さまご存知の多言語を用いた色々な仕事で社会に貢献されており、わが社も利用させて頂いております。

現在では御子息の高允男氏が社長をつとめ業績を着実に伸ばされております。高允男氏は快活で礼儀正しく、本当にすばらしい青年企業家であり、将来が楽しみです。

さて、私と会長との出会いは、建国高等学校の同門で彼は12期生で私が11期でした。今から6年前の2001年に、私が建国校友会の会長に就任したときに、同期の高原徳次氏と共に副会長を引き受けて頂きました。2005年には建国が60周年を迎えるにあたり広報担当を引き受けてもらいました。記念誌の発刊のための取材活動と校友会再建において、積極的に協力してくれました。北海道、東北等の先輩達への訪問、関東校友会の再建、そして韓国ソウル校友会の立ち上

げ。望郷の丘の李慶泰先生の墓参など。実に情報収集、取材活動には頭の下がる思いです。そして建国の歴史的なフィルム「幻のフィルム」の編集においては大変苦労をかけました。戦後すぐの建国を取り巻く在日の様子を見ごとに表現され、そのPR活動も積極的に行い、NHK、民団本部、韓国の報道関係などにも紹介されました。その功績は多大なものと思います。

昨年、会長夫妻と一緒に吉林省延辺に旅行をした時、長白山（白頭山）に登ると、雲一つなく晴天で、空の青さ、天池の青さ、道々の紅葉の美しさには感激致しました。

また、旅行中奥さまの会長に対する思いやりが大変印象深く、今も私の脳裏に残っております。会長が今こられたのは、奥さまの献身的な協力、支えがあったからだと思います。

今後KBS様の50周年、60周年と永遠のご発展と皆さまのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。



40주년을 진심으로 축하합니다.

40周年を心からお祝い申し上げます。

印刷産業新聞（韓国）

代表 박 종 세 (パク チョンセ)

KBS의 40주년은 남다른 의미를 지니고 있습니다. 순수한 한국기업으로 한국의 정신과 문화가 고스란히 살아 숨쉬고 있습니다.

KBS는 일본 속에서 한국의 인쇄 역사를 바르게 세우고 새로운 인쇄 문화를 창달하고 있는 애국 기업이며, 미래 성장형 벤처기업인 것입니다. 험난한 일본에서 한국을 대표하는 인쇄기업으로 그 어려운 질곡을 넘어 곳곳이 성장해 온 KBS는 창업자인 고인봉 회장님과 아들들 고윤남 사장님의 남다른 헌신적인 인쇄사랑과 한국사랑의 조국애가 함께 어우러진 소중한 성과라고 할 수 있습니다.

이에 KBS 40주년을 한국을 대표하는 인쇄 언론인 저희 인쇄산업신문도 함께 경축 드리며 앞으로 펼쳐질 40년을 넘어 400주년 이상 꾸준히 성장하는 장인 기업으로서 훌륭한 인쇄문화 산업을 실천해 주실 것을 당부 드립니다.

미래의 인쇄산업은 창조 경영을 얼마나 실천해 나가느냐에 따라 성패가 결정 난다고 생각합니다. 생산 환경변화를 혁신을 통해 고부가가치 인쇄기업으로 정착시키고 소비자 중심 고객 중심의 생산 활동이 원활하게 이뤄져야 하겠습니다.

미래는 유비쿼터스 시대라고 합니다. 언제, 어디서나 생산과 납품이 가능하도록 전사적인 정책을 입안하고 모든 직원들이 함께 협력을 실천하는데 게으르지 말아야 하겠습니다.

모쪼록 KBS는 시대 변화에 대한 트렌드를 잘 적극하고 세계 어느 곳에 비교해도 손색이 없는 훌륭한 인쇄기업으로 거듭 태어날 것을 주문합니다.

KBS의 무궁한 발전과 임직원들의 건승을 빕니다.

<要訳>

KBS の40周年は特別な意味を持っています。韓国の精神と文化がそのまま息吹いています。

KBSは日本の中で韓国の印刷の歴史を築きあげ、新しい印刷文化を育てている企業であり、未来の成長形ベンチャー企業です。困難の多い日本で、その苦難に屈せず成長してきたKBSは、創業者である高仁鳳会長と、ご子息の高允男社長との献身的な印刷への愛と母国に対する愛が、一つになり作り上げた大切な成果といえるでしょう。

ここに、韓国を代表する印刷言論人の我が印刷産業新聞も共に、KBS 40周年のお慶びの言葉を贈ります。今後40年を越え、400年以上着実に成長して、老舗企業として立派な印刷文化産業を実践されることを願う次第です。

未来の印刷産業は創造経営をいかに実践していくかにより、勝敗が決まると思います。生産の環境変化を、革新を通じて高付加価値印刷企業として定着させ、消費者中心・顧客中心の生産活動が円滑に成り立たねばなりません。

未来はコピキラス時代と言われていています。いつでも、どこでも生産と納品が可能となる全社的な政策を立案し、全社員が共に協力していくことを怠ってはなりません。

KBSが時代の変化に対するトレンドに積極的で、世界のどこと比べてもひけをとらない立派な企業として再び生まれ変わることを心より願っています。KBSの限りないご発展と社員皆様のご健勝をお祈り致します。

翻訳者からも…

英語翻訳者

ブレント&エミコ ウィンチェスター

ケイビーエス創立40周年おめでとうございます。私達が御社と初めてお仕事をしたのは1996年でした。それから長年に渡って、親切で温かい社員の方々と共に、たくさんの興味深いお仕事を楽しく取り組ませていただきました。御社の益々のご活躍ご発展を、またこの創立40周年が皆様方にとって素晴らしい思い出となりますよう心よりお祈り申し上げます。

Congratulations to KBS on your 40th anniversary! We first began doing translation work for KBS in 1996, and through the years we have always enjoyed working on many interesting projects with the friendly KBS staff. We wish everyone continued success in the future and a memorable 40th anniversary celebration!



ポルトガル語翻訳者
松井 高

創業40周年おめでとうございます。私も今年40歳になりましたが、貴社がそれほど長い歴史を歩んでこられたことにはただ敬服するばかりです。

もう10年以上も前の話ですが、職場の先輩が次のように語っていました。「新しいことを始めるのは大変なことだけれども、もっと難しいことは、始めたことをずっと続けることだ。」

私自身は以前の福祉の仕事は辞めてしまいましたが、日系ブラジル人である妻と一緒にポルトガル語の翻訳や通訳を新しく始めました。ポルトガル語はまったく独学でしたが、妻の協力を得ながら、現在では私が住んでいる滋賀県の4つの市で、行政通訳や行政通訳、学校での日本語指導などを行っています。

民間での翻訳は以前のように積極的にできなくなりましたが、ケイビーエスの皆様とは、私が個人で仕事を始めた当初からのおつきあいです。初心を忘れずに、この関係を大切にしていきたいと思っています。

これからの貴社の益々のご発展をお祈り申し上げます。

Parabéns por completar 40 anos da fundação.

Este ano, eu também completei 40 anos de idade, porém fico muito admirado por sua companhia ter caminhado por tão longo tempo.

Há uns 10 anos atrás, um colega de idade do meu ex-trabalho falava como a seguir:

“Começar uma coisa nova é difícil, mas a coisa mais difícil é continuar a coisa começada.”

Eu parei o meu trabalho de assistência social de antes, mas comecei a fazer o trabalho de traduzir junto com a minha esposa, brasileira, descendente de japonês. Eu tenho estudado português por conta própria, porém tendo a colaboração da esposa, atualmente, em 4 cidades de Shiga, onde eu moro, estou fazendo a tradução oral e escrita nas prefeituras, o ensino do idioma japonês nas escolas, entre outros. Por hoje não tenho muito tempo de fazer a tradução escrita espontaneamente pelas companhias particulares como antes, mas tenho caminhado com todos da KBS desde o começo do meu trabalho. Sem esquecer a intuição do início, gostaria de continuar dando valor a esse laço.

Estimo a prosperidade superior da vossa companhia de agora em diante também.



私「鳳@bong」とKBSの40年

会長 高仁鳳

KBSは僑文社から

1968年1月、KBSの前身、韓国語印刷の僑文社が誕生した。初めは活版印刷だ。妻が鉛の活字を拾いつまり文選をし、私が組版し印刷機を回し、印刷を行った。



1968年当時の僑文社

仕事は、在日同胞関係、民団や団体、基督教関係の印刷物が主な仕事だ。

この年3月に、長男が生まれた。現在の社長・允男だ。彼を高校から韓国へ留学させることにした。小学から建国学校へ通わせたが、韓国語を自由に話すのは難しい。建国の先生は、「韓国へは大学から留学させてもいいのでは」と、反対していたが、やはり言葉は若い時から学んだ方がいいと私は思ったので、高校からソウルの高校へ留学させた。その選択は間違っていないと今も思っている。

70EXPO韓国館の印刷物受注



韓国館のポスター

1969年の6月、自宅を2階建てに建て直して、西成区から生野区へ印刷工場を引っ越した。1階を印刷工場にし、2階を住まいにした。

1970年に大阪で万国博覧会が開催されることになった。この万博に韓国政府からも「韓国館」として出展することになり、そこで使われる印刷物の注文が入ることになった。万博の事務局は韓国政府だから、政府機関のKOTRA（韓国貿易センター）から発注が来た。

KOTRAとはその前から印刷物の注文を受けていたので、すべての印刷物を請け負うことができた。この時韓国館のポスターを受注したのが初めてのカラー印刷だ。

写植機導入、オフセット印刷へ

1971年ごろから、統一日報社がハングル雑誌「통일(トンイル、統一)」の発行をすることになり、これを受注した。文字の多い雑誌で、今までの活版ではどうしても対応することが難しく、写植機を導入することにした。



現在の場所へ移転

しかし、写植機を入れるところもなく、版下などの作業をしなければならず、ど

うしてもその場所が必要だった。屋上にプレハブを建て、そこに写研の手動写植機3 R Yの中古機1台を導入した。私は写研の写植学校へ通い勉強をした。モリサワの小型写植機を導入。2台目の手動写植機だ。

1975年NHK国際局より韓国向け日本語テキストの注文を受けた。

1977年に現在地へ移転した。写植など版下オフセット部門のみ引越し、活版部門はそのまま自宅において、主に封筒や結婚招待状などを、妻が文選、組版印刷まで行った。



文選中

角川「朝鮮語大辞典」の組版

1981年、角川書店より「朝鮮語大辞典」の組版の打診があった。受注しなければと思ったが、手動写植機ではとても難しい。なんとか電算写植にできないかと考えた。それで、写研とモリサワに相談したが、写研からは「まだ日本文の電算化も不十分なのに、ハングルの電算は無理」と断られた。しかしモリサワは、当時の山本部長が「それやってみましょう」と、対応してもらえた。



朝鮮語大辞典

1982年、日本語の電算入力機をハングル化して、ソフトを入れ替えることで、日本語もハングルも入力できるようになった。日本語と韓国語が同時に入力編集ができる、ハングル電算入力編集機の第1号機が完成、導入したのだ。

しかし、文字入力から編集まで、この「電算入力編集機」でするのは効率が悪い。この時パソコンNEC9801がはやって、日本語ワープロの一郎と松があった。またハングルワープロとして、KOAハングルがあった。私はこれに目をつけ、これを電算の入力機に使えないかと考えた。日本語は松、韓国語はKOAハングルを使った。



電算写植にて組版

このワープロデータを電算に利用するには、変換ソフトを考えればいい。電算写植の文字コードとワープロの文字コードを対応させて変換すれば、ワープロで電算写植の入力機に使えることがわかった。それで文字対応表を作り、文字変換テーブルを作った。それで、変換するソフトが出来た。

もちろん、KOAハングルのワープロソフトを作った高電社の協力も得ての完成だ。それで、電算写植の入力はパソコンですることが出来た。電算入力編集機はただ編集することだけに使うようにしたので効率が上がった。

パソコンを電算編集機に利用

私はパソコンが日本に登場する前から、マイコンというコンピュータに興味を持った。それで毎週のように日本橋の電気街へ通い始めた。1979年に8ビットパソコンNECのPC8001が登場したが、それが登場する前にアメリカのタンディラジオシャック製8ビットパソコンTRS80というパソコンを購入した。モノクロ画面で、BASICというコンピュータ言語でプログラムを書いて動かすというもの。データはカセットテープに保存していた。やがて、NECのPC8001が出た。これはカラーで、保存はフロッピーを利用するようになった。私はTRS80を下取りにして、このPC8001を購入した。

息子の允男がこのPC8001に興味をもち、すぐ遊びはじめ、簡単なゲームを作ったりして遊んでいた。韓国へ高校の留学の時はこのPC8001を持って行った。

この頃から16ビットパソコンPC98シリーズが出始めた。これはマイクロソフトのMS-DOSで動くパソコンだ。これは本格的に使えるコンピュータだ。私はこの98でエクセルの前身マルチプランや桐というソフトを利用して、印刷関係のデータの加工をしていた。

三修社「基礎ハングル」組版

1984年、三修社から「基礎ハングル」という月刊雑誌の受注を受けた。しかし、すんなり受注が出来たのではない。三修社が韓国語勉強のための月刊雑誌を発行する企画があり、どこでその印刷をするか、韓国語組版の出来る印刷会社を探していた。担当者が東京から僑文社へ見に来た。

後で返事をすると帰ったのだが、何の返事もなかった。それで、私は三修社を訪ねて東京へ行った。前田専務に会った。「僑文社に行ってきた担当者の話では、小さな町工場で、月刊誌は出来そうもないと言っていたよ」という。私はこの言葉に対して、「僑文社で出来ないのなら、日本でどこを探してもできませんよ」と答えた。

そのとき、前田専務の机の上にパソコンPC9800が置かれ、それをさわっていた。

私はその画面を覗いて、「それはこうすればいいですよ」とパソコンの操作を指摘した。「お、あなたはパソコンを知っているのか」と目が輝いた。

「はい。僑文社ではコンピュータを利用して組版をしています」との返事にすっかり乗り気になり、「今晚、めし一緒にしよう」と、天ぷら屋に連れて行ってもらった。このとき食べたてんぷらのおいしいこと、いまだに忘れられない。

それから三修社の「基礎ハングル」の受注をし、難しい組版を鄭炳采が担当した。

1985年東京支社を開設した。モリサワがある文京区に事務所を借りた。雑誌「オリエント」を発行していた金憲淑さんが一時



基礎ハングル



「基礎ハングル」
苦勞の韓国語組版

東京支社を受け持っていたが、やがて義弟の林季成に支社を任せた。この時は、ハングル電算写植を持っているのは我が社だけで、日本の韓国語関係印刷物の大半は受けるようになったと思う。

リョービ電算システム「レックス」導入

1987年8月にリョービの電算システムのレックスを導入した。大阪写植組合で山本写植の山本さんを知るようになった。山本写植ではリョービのシステムを使っていたので、そのシステムを見せてもらった。

それは写研の文字盤を利用し、手動写植機のロボット化したものだった。私はこれをハングル化することが出来ると思った。モリサワの電算プログラムを応用して、このレックスシステムを韓国語システムに出来ると考え、システムを構築した。



RECSシステムを用いた紹介記事
(MONZ: 1989年1月1日号)

広島にあるリョービ本社の技術部と連絡をやりとりしながらやがて完成し、レックスシステムを導入することになった。もちろん文字入力もPC98で行い、ワープロで日韓混植の入力システムができた。編集はレックスで行うことになった。ページものはモリサワの電算システムを利用し、簡単なものはレックスを利用するようになった。モリサワとレックスのデータの共有化も図った。日本語は写研書体が利用でき、ハングルの書体も文字盤さえ交換すれば多くの書体を利用することが出来た。

ハングルの書体は韓国から導入することにした。ソウルの印刷材料を扱う会社の営業マン、陳炳業さんと知り合ったが、彼の兄が写植の文字盤を製作していた。タイボス書体や丸ゴシック、ナール系などの書体を購入した。

1990年1月、個人経営であった僑文社を、株式会社に設立登記。社名をケイビーエス株式会社に変更。社名は僑文社(KyoBunSy)の頭文字から取り、ケイビーエス株式会社として、新しくスタートした。

MAC多言語システム完成

1991年7月、ソウル支社を設立し、支社長に陳炳業が就任した。そのころMacを導入したが、きっかけは韓国支社を訪問し

たときで、韓国では多くの組版をMacで編集し、印刷物を作っていた。Mac本体は日本のものと全く同じものであった。

これは使えると思った。言語システムを変えればどの言語も使えることがわかった。システムを混ぜれば、つまり日本語と韓国語システムを混ぜれば、日本語韓国語システムになるのではと思い、そうすると出来上がった。そしてそれに中国語システム、台湾語システムを混ぜることによって多言語システムが完成した。

そしてタイ語やベトナム語など、Macによる多言語組版の仕事が相次いだ。

1993年9月にはイメージセッターを導入し、多言語同時出力が可能となった。多言語印刷の記事が日本経済新聞などのマスコミによく取り上げられるようになった。



多言語印刷のケイビーエスとして紹介される

インターネット時代の到来

そのころインターネットに関心をもつようになった。それまでは、パソコン通信ニフティによって、多くの人とテキスト文字データの交換などが可能であったが、インターネットはグラフィックが扱われ、画像が見られ、強い衝撃を受けた。これを利用しないことはないと思われ、早速導入することにした。

1996年1月にはKBSのホームページを日本語、英語、韓国語、中国語の4ヶ国語で制作し、発信した。



1996年当時のホームページ

1996年4月にkbsjapan.comという独自ドメインを獲得し、インターネットを大いに活用することになった。現在はこのインターネットによって仕事の受注・納品が行われるようになった。

インターネットで新聞制作

1997年1月、「済民日報日本語版」のインターネットによる新聞制作を行う。

韓国の済民日報の金孝晃会長から、済民日報日本語版を発行

したいとの相談が持ち込まれた。私はこれをインターネットを利用すれば可能と思い、引き受けた。

会長に「新聞社のシステムを見せてください」というとすぐ「行きましょう」と、2日後に済州道に飛ぶことになった。このとき、会長は毎週木曜日に済州道に行き、日曜日に日本に帰っていた。それに同行したのである。

済民新聞社の組版システムを一通り見て、済民日報社と大阪本社に高速インターネット回線を引くように提案した。ケイビーエスではすでに高速回線を導入していたので、この3ヶ所を結べば出来ると判断した。試験的に記事の原稿を写真と共に済州から大阪本社へメールで送ってもらい、それを翻訳し、その記事をケイビーエスへ。ケイビーエスで組版をし、そのデータを済州で出力、印刷して発行することを考えた。

しかし、日本語の出力を済州でするのはなかなかフォントの導入が難しい。それで、ケイビーエスでフィルム出力をし、印刷を済州ですて大阪へ運び発送をしようとしたが、どうも時間がかかりすぎる。それで、新聞印刷を大阪ですることにした。毎日新聞の印刷をしている高速オフセットに協力してもらうことにした。

毎週木曜日に発行することを決め、水曜日12時を最終締め切り、5時までに新聞大判8ページを組版し、フィルム出力。フィルムはバイク便で高速オフセットへ運ばれ、9時までに印刷が完成し発送部へ、木曜日には読者に届く、というスケジュールで進められた。

1997年4月、高品質イメージセッター富士フィルムのラックスセッターを導入、B2ワイドの多言語出力が可能になった。



済民日報日本語版
(1997年5月22日号)



ケイビーエス紹介記事
(MONZ: 1997年発行)

多言語ホームページ制作

1998年に創業30周年を迎えた。9月、Windows導入。多言語WindowsDTP構築、早速ナルゲの一部をWindowsで組版、印刷を行う。

1999年2月、私のホームページ「鳳@bongのpage」を開設。ビデオカメラで撮った写真を中心に個人的な見聞録情報を発信するようになった。

2000年5月、(株)ミスミの韓国向け通販カタログをインターネットを利用して制作。東京の通信販売会社(株)ミスミのカタログを韓国版に翻訳、出版を韓国で行うことになり、原稿のやりとり、校正作業をインターネットを利用し、東京、ソウル、



鳳@bongのpage

大阪を結び校正作業を行い、韓国で出版した。

2000年8月、進研アド「Studying in Japan」サイト制作に参加。多言語部門ホームページを担当した。そして韓国へのPRも引き受け、韓国の日本留学学校などへの宣伝も行うことになった。

2001年3月 BHA社のB'sGoldやB'sClipのアプリケーションを韓国語、中国語簡体字、繁体字にローカライズした。

社内報を最新の印刷技術CTPにて制作

2002年8月、社内報ナルゲ28号を最新の印刷技術CTPにて制作した。

社内報ナルゲは印刷の実験場にもなる。新しいことの実験を行うことがいつももあるがそれにナルゲを利用した。



CTPで作成したナルゲ

これまでの印刷は、製版フィルムを作り、印刷用の刷版をして印刷用の版を作っていた。それを、このフィルムをなくし、直接版を作り、印刷する。これはフィルムを使わないので大幅に時間とコストが安くなる。このために、フィルム作成をしていた印刷製版会社が多くつぶれた。

このCTPを利用する印刷する方法はPDFを利用することだ。PDFファイルにはフォントが埋め込められ、印刷工場にフォントがなくとも、印刷が出来るのである。この方法を利用すれば、印刷会社がどんな遠くにあっても、印刷用のデータを送ればそこで、印刷することができる。

いま、KBSが制作している「スロット関西」の韓国向け印刷物はこの方法で制作しているのだ。大阪でPDFファイルを作り、ソウルで印刷され、配布されるのである。

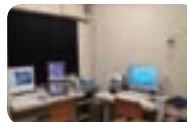
KBSまだん開設

2003年創業35周年を迎え、9月にケイビーエスの隣に多言語スペース「KBSまだん」が完成した。プロジェクターと大型スクリーンを設置し、韓国映画上映、韓国語講座をしたり、異業種交流会フォーラム・アイの集まりなどに利用するスペースを用

意した。地域の活性化のためにお役に立ちたいと願っている。最近ではここでビデオ編集などの作業も行っている。



まだん開設



映像部としても活躍

新社長にバトンタッチ

2004年1月、高允男が社長に就任。私は会長に退いた。

それからは、私は一線を新社長に譲り、後方からサポートすることになって、もっぱら「KBSまだん」の管理とビデオ撮影・編集などに時間をさいている。

最近の私の動きは「鳳@bongのpage」のページをみればわかる。すべて、ここに記録している。

<http://www.inbong.com/>

建国学校幻のフィルムビデオ制作

私の母校、建国学校が2006年5月創立60周年を迎えた。その記念誌の制作をするために取材をしているときに、学校創立時の60年前のフィルムが見付かった。

そこで、記念誌にこのフィルムを編集し、DVDを作成、記念誌と共に配布することにした。また、5月31日に行われた記念式典で上映することにした。撮影、フィルム編集のため、映像制作部を設けた。

約1年ほどの取材撮影などし、30分物のドキュメンタリー作品が出来上がった。建国60周年記念式典で上映し、大反響を呼んだ。新聞・テレビなどにも取り上げられた。

このフィルムは、千葉・佐倉にある国立歴史民俗博物館が、2010年のリニューアルにともない、戦時中・戦後の展示に「建国幻のフィルム」を常時上映する予定という。いま、その展示用のビデオフィルムを制作中だ。

東京オフィス開設

2006年9月、東京オフィスを置くことになった。

以前、4カ国語雑誌、「We're」を発行していたカマーゴさんが支社長を引受けることになった。場所も六本木と位置のいいところだ。

これからも、多言語のケイビーエスは、允男社長が率いて、進んでいくことだろう。常に時代の一步先を見つめながら……チャレンジしてほしい。



ナルゲつれづれ記

専務取締役 **林** いむ **芳** ばん **子** じゃ

創刊は1992年4月30日、A4版4頁、モノクロ、うぐいすの色上質に刷られている。

社内報の名前をどうするかいろいろ悩んだが、「ナルゲ」と命名した。韓国語で翼の意味で날개(ナルゲ)である。実は、私のイメージとしては、母鳥が大きな翼で雛たちを羽に抱いて守るといふ思いで付けたのだった。1989年に法人化したとは言え印刷業界はコンピュータ化の波を受けて揺れ動いていた。

表紙タイトルは、「できるかな?にチャレンジ」、映画E・Tの有名な画面が載っている。当時の高仁鳳社長の「하면 된다(ハミョンテンダなせばなる)…失敗は成功の母です。失敗を恐れることはありません。特にKBSでは。」と書いている。ちょうど4月から始まったマック部の紹介記事「5月からアラビア語、タイ語、ポルトガル語等、多国語単語の本がMAC部を中心に作業されます。」と載っている。



ナルゲ創刊号(1992年4月)

また、「♪毎月第1月曜は、美味しいカレーを食べる日です!」と紹介されている。

カレーの日は、彼(カレ)&彼女つまり社員のための日ということで、月1度昼食を一緒にしながら親睦を深めるために考えついた事で、カレーを前夜に作ってご飯を当日会社で炊いた。これが好評で、5年位続いた。17号(1996年10月)に、当時の大阪DTP協同組合新井明夫理事長をお招きして、特別講演とカレーの日を開催したという記事がある。

第10号は1994年1月発行でカラー8頁、表紙には「94年は第3の革命を成し遂げる年」と意気軒昂だ。そして、「第1の革命は、モリサワのライントロン電算写植機にハングルを入れたこと、第2がリョービレックスでハングルが使えるようにしたこと。第3の革命マルチリンガルイメージセッターの完成。したがって94年はいかにこれをうまく利用して、効率をあげるかということとなります。……」と謳っている。

その頃急速に、欧米語だけでなくアジア言語の需要が増しつつあったが、マック上で未だ日本語と一緒に組版作業が出来なかった。KBSでは、写植時代から日韓混植の経験が豊富で、いち早く、電算、マックと取り組んできたのだ。しかも自社内において韓国語はもちろん中国語、タイ語、ベトナム語など同時フィルム出力までの一貫作業システムを構築した。高仁鳳がマスコミや業界で「多言語のKBS」としてよく取り上げられ、講演や記事の取材を受けるようになった。「ハングルならKBS」と業界で認識されているが、これからは幅を広げて「多言語ならKBS」と進めていこう、と述べている。

ナルゲ20号は創業30周年記念特集号だ。1998年1月、16頁で組んでいる。「ああ、創業30年!これからも一歩先を進む」というタイトル。小さな活版印刷から始めた時、



第20号(1998年1月)創業30周年記念特集号

30年も続けられるなんて思っていなかった。その思いがこもっている。「30年と社内報」という記事では、「……また社内報はKBSの新たな挑戦(実験?)の場であったようだ。今では当り前の3Dグラフィックや写真合成など、かなりの苦勞の後が見える。写真もデジタルカメラやビデオからの入力など時代に合わせたの試みも忘れない。意外なことを当り前にする。社長はじめなんてチャレンジの好きな人達なんだろう。」と社員のSさん。

17号から26号まで、「マダンの児」が朴禮和さんの挿絵とともに10話掲載された。これは、韓国で生まれた彼女の幼いときから日本に渡って終戦を迎えるまでの自伝で、楽しみにして下さった方も多かった。

ナルゲ30号は、2003年8月発行だ。1月に創業35周年を迎え、事務所の横に「多言語スペースKBSまだん」を開設し、韓国語教室、映

画上映会、会議などに利用するようになった。

2002年日韓ワールドカップの熱気もさめやらず、「冬のソナタ」の韓流ブーム、ますます日本とアジアの距離は密接になっていく。デジタル化が進み、インターネットによる仕事が増え、「KBSはソフトハウス!」として、「マニュアルも多言語PDF化、ネットで納品」という記事がある。

31号(2004年1月)では、「新しい年、新しいKBS」というタイトルで、新社長・高允男の就任を伝えている。めまぐるしく変化する業界で、新しい舵取りを担っていくために、「私は社長として、一から出発いたす所存です。全てにおいて新たな気持ちで挑戦していきたいと思えます。」と決意を述べている。

32号からナルゲのロゴと誌面を一新した。またこの頃、様々な展示会への出展の様子が掲載されている。



第32号(2004年7月)リニューアル号

34号では「シンプルにわかりやすく、ホームページ全面リニューアル」。

37号(2007年1月)では、「ケイビーエス東京オフィス始動」とともに、「高品質カラー名刺500枚が4800円」という記事もある。新社長の強みを生かした、インターネット上の受注印刷だ。

吹けば飛ばすような小さな会社、それが40年の永きにわたって生きてこれた。私たちが「チャレンジ」を信条として常に一歩先を見つめて進んできたからではないか。

今、社会が必要としなくなった企業は、今日栄えていても、明日消えてゆく時代だ。ましてや、私たちは社会のニーズに応えるための挑戦を怠ってはならない。

お得意様、下請先、従業員、取引銀行、組合、協力会社、いつも応援して下さった方々、心から深く感謝を申しあげます。未熟で世間知らずだった私たちが、なんとか現在あるのは、皆さまのご愛顧・ご支援の賜物です。ほんとうにありがとうございました。

※第20号(2003年8月)から最新号までを弊社ホームページからご覧になれます。
<http://www.kbsjapan.com/ja/company/nalgae.html>

記憶にのこる「BJ」

営業企画部 上間 行洋

40年を振り返って記憶に残る仕事の一つとして、月刊BJ(バー・ジャーナル)がある。これは酒類の業界誌で、百貨店に於ける輸入洋酒の価格表、ホテルやデパートに於ける売れ筋酒類の動向、酒類に関する様々なニュース、フランスやドイツのワイン畑やワイナリーの紀行文などを記事にした冊子で、ケイビーエスがこの仕事に関わったのは、社名も僑文社の時代の1980年代の前半のことで、月刊の冊子物としては、たぶんケイビーエスでは初めてのものだっただろう。A4判数十ページの平綴じ製本もので、表紙と本文に4頁程のカラー頁があり、時には特集として2色グラビア頁が入ることもあった。

この一つの仕事を受注した事によって、写植から版下、製版、色校正(青ヤキ)、印刷、製本まで、一通りの工程に関与することになった。

それによって印刷物の流れや、各工程に於ける多少の知識や段取りなどを覚え、経験したことが、自身の印刷屋としての基本を育ててくれたと言ってよいだろう。

わずか3、4人のスタッフで月刊誌を毎月出すというのは、納期というプレッシャーもあったと思うが、しんどかったと言うより、興味のある酒類の記事に触れることができ、むしろ楽しく仕事していたような気がする。納品の日などは、お客さんが第三種郵便での発送準備を終え、品物が届くのを今か今かと待たれることもしばしばで、時にはその郵便物をタクシー代わりに郵便局まで運ぶこともあった。

無事に発刊できて、お客様である相手編集者たちと打ち上げ会をもち、一杯飲みながら、語り合ったり歌ったりしたことも、当時まだ若



かった自分達の奮起を促したのかもかもしれない。

また、印刷屋として、色々なお客さんの、様々な原稿を見てきた今だから思えるのかもしれないが、この時の原稿こそ完全原稿と言えるものだった。文字は原稿用紙にキチンと書き込まれ、割り付け用紙には見出し、本文の区別も解り易く記しており、文字数、行数などもしっか

り計算して、写真などもキッチリ配置してあり、トリミングの指示もはっきりとしていたので、一部未入稿の部分があったとしても、そこは後回しで、原稿が来ているものから、どんどん進めれば良いので、手待ちになることもなかった。

今や写植、版下、製版の三工程をまとめてDTPと称され、文字組版も写真処理も自在に操れるようになったこのご時世に、このような素晴らしい原稿と出会うことは二度とないだろう。



2007年忘年会にて(左から李、上間、横澤)

20年以上前のこと

Web担当 横澤 寅男

私が学校を出て、一番最初に働いたのがケイビーエスの前身である「僑文社」でした。

僑文社で仕事を一から教わったのですが、当然一朝一夕で覚えられるものではありません。ミスも多く、毎日のように繰り返す叱られ、いつも夜遅くまで仕事をしていました。“横澤君は遅くまでがんばるなあ”などといわれると、自分の手の遅さに恥ずかしくも感じました。

今、私はwebの仕事がメインですが、当時はwebなどというものは無く、そこでどんな仕事をしていたかということ、主に版下作りがメインです。レイアウトしたものを、文字は写植で、ロゴやマークは紙焼きで、印画紙状のものを台紙に貼付ける。印刷物になるにはその後の工程もたくさんあるのですが、版下というのは元になるものだから、とても重要なんですね。その版下で一番苦労したのが0.1mmのケイ線でした。線幅0.1mmのロットリングを使えば、0.1mmのケイ線が引けそうなものですが、実はそうではなく、それが結構難しかったのです。

学生の頃はロットリングなどという高価なものを使えず、烏口を使っていましたが、ケント紙の上ならそこそこ出来るのに、当時使用していたレイアウト用紙になると、微妙に紙の表面が違ってうまく出来なかったのです。結局ロットリングのラビッドグラフ0.13mmというのが、その後何年も私の中では最高によかった一品となりました。

版下といえば、切り貼りが重要なのですが、カッターやペンナイフの使い方も上手になりました。薄い紙を二枚おき、尺を当て上の一枚だけを切る。そんなこと必要な?と思うかもしれませんが、写植の文字を修正するには必要な技術だったのです。版下というのは、それほど微妙な作業の繰り返しでした。現在のDTPとはまるで違う世界です。この文章を読んで何のことだか判らない人も多いでしょう。ですが20年前はみんなそうしていたんですね。今思うと全て懐かしい思い出です。

ハンゲル印刷の職場として

制作部 李秀泰

会社には古い書籍の並ぶ書棚がある。奥付に「印刷：僑文社」とあり、1970~80年代の発行が多い。在日韓国人社会の郷土親睦会や親族会、青年団体、銀行や経済関係、民族学校・民族教育運動など…、これら団体の記念誌や報告書など、さまざまな印刷物である。

電話帳のように分厚い年の年鑑や人士録、珍しいところでは、族譜などもならぶ。また韓国語の学習書、日韓史、民族統一問題をテーマにした雑誌や、韓国民謡の研究書など、分野も広きにわたっている。最近ではあまり見かけない箱入り製本も多く、年代を経た今でもずっしりと存在感がある。

時折、本棚から手にしてページをめくってみることがあるのだが、当時の在日韓国人のさまざまな想いや運動の貴重な記録であることは言うまでもないが、これらの仕事を印刷会社として請け負ってきたケイビーエスにとっては、その一冊一冊が本当に思い出深い作品であるのだ。

当時、会社には韓国からの留学生も多く働いていて、結構めまぐるしく入れ替わっていたように思う。留学生活も今よりもっと経済的に困難だったはずで、その夫人たちもアルバイトで来ていた。また日本人の中には、韓国語が堪能で、ハンゲルを仕事にできる喜びを胸に働きに来た人もいた。韓国語を仕事として求める人がおり、その人たちに仕事を提供する職場であり続けてきた。これもまた、ケイビーエスの歩みであったと思う。この会社で働いたたくさんの人の、そしてその人たちの手を経てできあがっていった印刷物の数々をみながら、そう思った。

学問には終わりが無い

翻訳部 カク キョウ ブン
(中国語担当) 郝 晓 雯

私が入社してから、もう13年の年月が過ぎました。入社当時は多言語組版の仕事をしていましたが翻訳部へと移り、現在は中国語翻訳を担当しております。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、中国語には簡体字と繁体字の2種類があり、中国大陸で使われている言語は簡体字で、台湾や香港で使われている言語が繁体字です。日本語を中国語に翻訳する際には、大陸と台湾では表現も異なってきます。例えばPC用語の中で、日本語の「お気に入り」は、簡体字では「收藏」と訳しますが、繁体字になると「我的最愛」となります。また、日本語の「プロパティ」においての簡体字訳は「属性」となるのに対して、繁体字では「内容」と翻訳します。更には、日本語の「インターネット」だと、簡体字では「英特网」、繁体字では「網際網絡」となるのです。

翻訳の仕事をしていると、中国の「学无止境」(学問には終わりが無い)という言葉が改めて感じることがあります。翻訳者として中国語と日本語、双方の意味を理解していなければならないですし、また翻訳というものは経験を通してコツを掴むことも必要だと思



ます。良い訳文はとても生き生きとしていますが、粗雑な訳文は内容が薄く、更には原文との矛盾点も沢山出てくることもあります。わが社の翻訳分野は、観光から科学技術に至るまで幅広く、お客様に「正確で且つ、生き生きとした翻訳」を常に提供できるように、日々精進していく必要があるのだと思っています。

「スムーズな意思疎通によって、あらゆる国の人々が互いに理解しあえる世界を創る」それはKBSのあくなき信念です。今までも、そしてこれからも、その信念に基づきKBSの発展のために貢献して行きたいと思っています。

学无止境

我进公司已13年了，刚进公司时搞排版，后来因工作需由排版转到中文翻译，众所周知，中文有简体中文和繁体中文之分，中国大陆用的是简体汉字，而台湾和香港则用的是繁体汉字，因此，同样的日语在翻译成简体和繁体时，译文大相径庭，比如PC用语中的日语“お気に入り”翻译成简体中文时为“收藏”，而翻译成繁体中文时则为“我的最爱”；另外，日语“プロパティ”的简体中文为“属性”，而繁体中文则为“内容”；日语“インターネット”简体中文译为“英特网”，而繁体中文则译为“網際網絡”……。

在翻译工作中让我还深深体会到“学无止境”这句话的含义，翻译工作者不仅需要了解汉语规则与日语规则的之差，更要掌握翻译要领，一篇好的译文往往形神兼备，而粗劣的译文则平淡无味，甚至有悖于原文。本公司翻译领域从观光到科技等，涉及范围非常广泛，为了向客户提供“形神兼备、准确无误”的译文，这就要求翻译者需要不断地学习、提高和丰富自己的知识。

“通过畅通无阻的交流，创造全球人类相互理解的世界”——这是KBS的信念，我作为一名中文翻译工作者，将一如既往地本着这种信念，为KBS的发展做出自己的贡献。

時間が経つのは速く、KBSに入社してから、既に7ヶ月経ちました。今年はKBSの創業40周年です。私の7ヶ月は40年と比べてみると約1/57、比べものにはならないのですが、それでも、私にとっては人生の内のかけがえのない時間でした。

KBSでの仕事はアルバイト勤務ですが、自分の専門能力を生かして働く仕事としては、初めての経験なので、この経験を大切にしています。KBSで経験を積み、仕事でのスキルや人間関係も学びます。それらは学校では学ぶことができない大切な課題なのです。KBSはひとつの家庭のように、本当に皆の仲が良く、経験の浅い私にも、いろいろと親切に教えてもらって本当に感謝しています。以前の私は「翻訳は難しい」とはそんなに思っていなかったのですが、ビジネスとして翻訳を始めるようになって、文法・語順の正確さ、当地の文化を考え一番原文に相応しい語彙を選ばなければならないこと等を経験し、改めて「翻訳はほんとうに学問だ」と考え直しました。仕事を無事終えたときの達成感は言葉では表現できないほど嬉しいです。この「嬉

スキルUPを目指して

翻訳部 おう えい ほう
(中国語担当) 王 映 方

さ」というのは頑張ったという証明でもあり、これから仕事を続ける動力でもあります。

私はKBSの一員として誇りを持って、学校では学べない知識をたくさん学び、人生を豊かにしていきたいと思っています。

人生的新階段—提升工作技能！

時間過得真快，進入KBS工作轉眼已七個月了，今年是KBS創社40周年，跟40周年比較起來，七個月的時間不過是其57分之1，但對我來說卻是我人生中不可取代的時光。

這份工作雖然是打工性質，卻是我第一份可以利用自己的專業來進行的工作。算是我人生中第一次的正式工作經驗，所以我格外重視這份經驗。進入KBS，我開始體驗工作，學習如何與人相處，學習工作上的技巧等等，都是我人生中的一大課題，是學校中學習不到的。



我很慶幸能在KBS中學習這些人生課題，因為KBS就像是一個大家庭一般，公司裡的每個人都很親切，益師亦友地教導初出茅廬還甚麼都不明白的我，以前並不覺得翻譯是一門大學問，但真正開始翻譯後才發現語法，語順，甚至要考慮到當地的風俗民情仔細推敲出最符合原意的文字，一切都是那麼的不簡單，不過當翻譯完成後，卻有種說不出的成就感，那種歡愉正是我絞盡腦汁，腦力激盪出來的成果，也是促使我繼續努力的動力。

我很高興能成為KBS的一員。在這裡，我學到了在學校所無法學到的知識，也更豐富了我的人生。

走馬灯の様に 甦る思い

経 理 北村 高子



私自身、40年の半分の年月をKBSですごした事になります。

思えば楽しい日々、そしてお客様の苦情を一気にうけ流した時の事とかいろいろと走馬灯の様に甦る思いです。でも今思えば楽しかった思い出が多く、でないとこの20年、お世話になる事もなかったかもしれません。

これからも会社の繁栄をお祈りして、そして私自身もお役に立つようにがんばっていきたくと思います。

これからの40年

東京オフィス カマーゴ・李 栄



会長のメールが朝届いていることを確認して、私の一日が始まる。東京にいる私は会長のフォルダーの受信がないと少々心配になる。

「今日もいい日でありますように」。

会長は40年間、KBSとともに、心から社員を思い、社会を思い、日本と世界を愛してきたのだと思う。

KBS東京もなかなかいっぺんには実績を残せていないが、信頼はじわじわと浸透していきだろう。質の高い多言語の世界をこれからの40年も自信をもってとどけていくのだから。

しかし、どんな時代になっていくのか…テクニカルな面は変化してもメンタルな心は普遍でありたいと思う。これからもよろしくをお願いします。

「明日もいい日でありますように」。

ワタクシゴト

翻 訳 部 伊 藤 茜
(韓国語担当)

はじめまして。10月末に入社しました☆伊藤と申します。ハングルに出会い、初めて韓国の地を踏んだ日からもうすぐ10年になりますが、晴れて大阪でハングル漬けの仕事ができるようになりました。ソウルで留学、就職…20代の前半を韓国で過ごし、一時旅人という遍歴を経て「年金納め」(←先は長い…)のために日本に戻ってきました。

大学では南北両方の「Korea語」を学んでいましたが、ここ数年さらなる「Korea語」に出会い、深みにはまっていています。卒論で「韓国のサイバー言語」を研究しながら新たなKorea語の世界を知り、その探究心が国境までも越えてしまいました。中国に渡り瀋陽で朝鮮族と酒とKorea語を交わし、鴨緑江を右目



に冷麺すすり、平壤焼酎片手に北のおばちゃんの生Korea語を聞き、ロシアはイルクーツクで高麗人のおばあちゃんと昔を想い…世界に広がっていったたくさんの「Korea語、Korea人」に出会えたこと、こんなに遠くに来て私のソウル語だけでいろんな人と語り合えることに喜びを感じています。

これからもソウル語で広い世界に出会えるよう日々精進していきます!



안녕하세요? 이번에 입사한 새내기사원☆ 이토입니다. 한글을 알게 되고 처음으로 한국 땅을 밟게 된 날로부터 벌써 10년이 되어 가고 있는데, 드디어 오사카에서 한글 삼매경에 빠져 일을 할 수 있게 되었습니다. 서울에서 유학 그리고 취직... 20대 전반을 한국에서 보내고 잠깐 여행이라는 편력을 거쳐 연금납입을 위해 일본에 돌아왔습니다.

학생 때 남북 Korea어를 배웠는데 이 몇 년 동안에 다양한 Korea 어

를 만나, 완전 빠져 있는 상태입니다. 졸업논문으로 한국의 사어 배언어 연구를 하면서 알게 된 또 다른 Korea어의 세계. 하지만 그 탐구심은 국경을 넘었죠. 중국 심양에서 조선족과 술잔 비우면서 들은 Korea어, 압록강을 바라보며 [랭면]을 안주 삼아 평양소주로 나발을 불다 옆에서 들려온 북쪽 아줌마의 Korea어에 감동, 러시아 이르쿠츠크에서 고려인 할머니와 추억에 잠기고... 세계에 퍼져간 Korea어,



中国四川省・九寨溝にて

Korea인을 만났다는, 한국에서 멀리 떨어진 나라에 와서도 제가 아는 서울말만으로 다양한 사람들과 이야기를 나눌 수 있다는 그러한 기쁨을 느꼈습니다.

앞으로도 서울말을 구사하면서 넓은 세상에 접할 수 있도록 하루하루 열심히 배워가겠습니다.



KBSに入社しました。
よろしく
お願いします。

こんな仕事しています!

韓国向けの金沢観光サイトを総合プロデュース

お客様：(財)金沢市観光協会様

金沢観光案内ホームページ韓国語版

<http://www.kanazawa-kankoukyoukai.gr.jp/korean/>



昨年暮れに、(財)金沢市観光協会より金沢観光案内ホームページ韓国語版制作の指名競争入札の連絡がありました。弊社のホームページを見て韓国語版の観光案内サイト制作の経験がいくつかあることから、指名を決定したそうです。

実は、ホームページ制作の案件で、直接入札に参加するのは初めてだったので、慎重にプレゼン資料を作成し、提出しましたが、約2週間後、無事KBSと契約する旨の通知をいただきました。



制作に当たっては、韓国向けということから、デザインを韓国のウェブサイト制作会社に依頼し、韓国人の感性に合ったサイトデザインにしました。

FLASHを多用し、古都金沢の魅力を存分に引き出せるよう工夫したつもりです。

また、サイト制作だけでなく、主要ポータルサイトへの登録作業など、ウェブプロモーションに関する作業も引き受けました。

このように、最近是在日外国人や外国人観光客の増加に伴

い、英語はもちろん、中国語や韓国語など複数の言語のホームページを持つ自治体や団体が増えてきました。

KBSでは、これからも、利用者の立場に立って、正確な翻訳、各国の文化に合わせた多言語化に努めます。

今年も社員旅行は北海道 道東



昨年に続き、今年もケイビーエスの社員旅行は北海道でした。初日は割と暖かく、二日目の後半からは大抵では体験できない雪を感じることができました。

今年のコースは、道東。摩周湖も霧が無く綺麗に見ることができ、そして知床のウトロ温泉。翌日は網走刑務所博物館を見学し、層雲峡へと向かいました。バスの外はその辺りから雪景色となり、銀河・流星の

滝は凍えながらの見学でした。最終日は、美瑛の丘を見学し、旭山動物園へ。雪の中での見学は貴重な体験だったかも知れませんね。

三日間の旅行で移動した距離は約880キロ。駆け足の旅行でしたが、心地よい疲れとともに、北海道の初冬を満喫することができました。

制作部 稲木 隆文



摩周湖

快晴の摩周湖で記念撮影



知床ウトロ温泉(泊)

絶景の露天風呂。でも風が強く、めっちゃ寒かったです。食事前ひとっ風呂♪ (3テイク目)



知床オシンコシンの滝

会長と専務、仲良くキムチ～



網走刑務所

極悪人を収監中
であります



阿寒湖

とかち帯広空港

移動距離約880キロ

新千歳空港



銀河の滝



旭山動物園

旭山動物園はどうだった?と皆に聞かれますが、「凄く良かった」と答えています。



美瑛の丘

雪景色の丘も素敵

層雲峡温泉(泊)



層雲峡
銀河・流星の滝

突然の寒波に
滝も凍ってました

40周年記念の **キャッチコピー** が決まりました

「ココロのつながり、コトバでつなく。」

制作部 慎 佳代子

創業40周年。そんな年月にはとてもか
いませんが、早いもので入社して5年目を迎
えようとしています。私がKBSに入社して、
第一に感じたことが「KBSはアットホームな
会社だなあ」と言うことでした。まるで、お
父さんやお母さん、兄や姉・妹たちが沢山
いるような、そんな温か
い気持ちになるのです。

昨今の機械における自
動翻訳の向上はめまぐる
しいものとなってきてい

ます。パソコンや電子手帳があれば何語に
だって翻訳できるのです。ですが、伝えたい
言葉を機械にまかせて本当に信頼できる
でしょうか？言葉は1通りの意味だけではな

く、少しのニュアンスで意味が異なったり
もします。わずかな単語は辞書で調べるこ
とができても、誰かに伝えたい思いを全て、
機械が本当に思い通りに翻訳してくれるで
しょうか？

私がKBSに入社した時に感じたアット
ホームな雰囲気。こ
れは「隣人は常に家
族である」という、
愛情を持って人に接
するわが社の想いで

す。隣の人と手をつなぐと、手のひらのぬく
もりを感じ取れるように、世界中の人々へ温
もりのある言葉を伝えたい。それは現在の
機械翻訳では決して伝えることのできない

温度だと思っています。

そんなことを考えながらできたキャッチ
コピーが「ココロのつながり、コトバでつな
ぐ。」でした。これは、私が営業企画部で直
接お客さまとの対応をさせていただいてい
た頃も、制作部へ移動し、お客様からお預
かりしているデータや資料を扱う今も、「私
が携わっているこの仕事は、誰かが誰かに
伝えたい大事な思いなんだ。」という意識
から生まれたコピーです。それは、私1人が
思っている気持ちではなく、KBS家族みんな
が思っている気持ちなのです。

人から人へ、伝えたい思いを確実に。今
までの40年も、これからもずっと、KBS
は真心をもってお客様へお応えします。



ココロのつながり、
コトバでつなく。
40th anniversary

カレンダー つくりました

営業企画部 野間 幸子

KBS創業40周年を記念してカレンダー
を作成しました。制作に当たって、どのよ
うなカレンダーにするか「多言語」をキー
ワードに話し合った結果、「各国の国花と
その花言葉」のカレンダーにすることに決
まりました。弊社が主に取り扱っている言
語より13カ国選択し、国家と花言葉を調
べ、翻訳者の方に翻訳をしていただきまし
た。又、13個の花のイラストはイラスト

レーターの韓美華さんに描いてい
ただきました。繊細で美しく、と
ても女性らしいイラストです。40
周年記念カレンダーはナルゲと同封
しております。よろしければこのカ
レンダーを飾ってデスクに花を添えて
下さいませ。2008年が皆様にとって
よい年になりますように。今年もコー
ディネーターとして、40周年の名に恥ずか



しくないよ
う、高いク
オリティ
と信頼を
心がけ、
一緒に仕
事をしてよかつた
と思われるよう今年も頑張っていこうと思っ
ております。どうぞ宜しくお願いいたします。

【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。
ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、
法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。
当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、
お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。
当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直し
と改善に努めます。

年末年始休業日のお知らせ

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、誠に有難うございます。
年末年始を下記の通り休業させていただきます。
勝手を申し上げますが、なにとぞ高配のほど宜しくお願い申し上げます。
12月29日(土)～1月6日(日)
1月7日(月) 午前中営業 1月8日より平常通り営業いたします

発行日 2008年1月1日

発行/編集 ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話 06-6716-5665
FAX 06-6711-2804
E-mail info@kbsjapan.com
URL http://www.kbsjapan.com/

制作メモ 使用アプリケーション
Adobe InDesign CS
Illustrator 8, 10, CS
Photoshop CS, Acrobat 6

編 集 後 記

●子どもの頃、「1年が過ぎるのはあっという間」と
という言葉不思議に思っていました。自分が大人に
なって、改めて時間の経過の早さに驚きます。9月に
挙げた結婚式なんて随分昔のよう。新婚生活はもっと
甘い時間だと思いましたが、実際は新米主婦ゆえ
に、炊事・洗濯やお掃除、ガス料金の振込み等々…毎
日の生活に追われ、甘い時間も睡魔に負けてしまうわ
けです。『光陰矢の如し』今の時間を大切に、色々な
経験を積んでいこうと思っています (佳代子)

●久しぶりに創刊号からナルゲを読んでみた。今読
んでみると、その時の状況や心情を映し出している。
書き手は国籍も様々な社員たちがほとんどだが、ほ
んとうに自然体で書いている。読んでいて思わず胸
が詰まる。懸命に生きる姿が目につく。とは言え
編集長は締め切りとにらめっこでキリキリ舞してい
た。いつもそのようにして出てきたナルゲ。50号、
100号と続いてほしい。
貴重な祝辞や文を寄せていただいた方々に心から
お礼を申し上げます。(いむ)

「KBSまだん」では、楽しい韓国語講座を開講中!



「初級コース (火曜日)」

毎週火曜日、夜7時～9時までの2時間(全10回)
講座内容:「初級」韓国語文法・会話の基礎を学んでいます。

現在、「初級II」(カナダ社)をテキストに使用しています。以前勉強していたのに途中でやめてしまった方も、再度チャレンジしてみたいかがでしょう。また、韓国語を勉強した経験のある方、文字が読める方は初めてでもOKです。



- 受講料 ●KBS まだん講座初参加の方……………20,000円
- KBS まだん講座2回目以降の方…15,000円

※受講を検討されている方のための、無料見学を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

TEL 06-6716-5665 KBS まだん韓国語講座まで

特別講座を
実施しました
＜会話編＞

実際に使える生きた韓国語を
学んでいただこう…

10/26～11/30(全5回)

まずは、いっぱい話して体で覚えること。頭で理解する前に、口から自然に言葉が出てくるようになりたい。ハングル文字は大切だけど、少々間違えたって会話が出来るほうが楽しい。とにかく韓国語が聞けるようになりたい、しゃべってみたい…そんな教室にしようと試みました。



「KBSまだん」韓国研修旅行を実施!



KBSまだんでは、楽しい韓国語講座を受講している方々を中心に、年1回の韓国研修旅行を実施しております。

今年は11月10日～12日まで、ソウル2泊3日の旅でした。旅行会社を通さず、ガイドさんとバスを雇っての、全くオリジナルのコースを企画致しました。食事も行き当たりばったりで選び、日頃の勉強の成果も発揮して、参加された皆さんには、とてもよかったと喜んで頂きました。



オフセット印刷

プラス コーティング

- 写真も文字も美しいオフセット印刷
- 渡したときに差がつくコーティング仕上げ
- 最新設備の韓国工場での印刷
- 20,000円以上のご注文で送料無料

■コーティング(ラミネート)加工について

つや消しのシルクコーティングと、つや有りのクリスタルコーティングをお選びいただけます。クリスタルコーティングについては、ショップカードなどで、裏面に書き込みやスタンプができる片面コーティングも承ります。

■サイズについて

- すべての商品について、下記のサイズを選べます。
- 90mm×54mm(日本国内での標準サイズ)
- 89mm×51mm(欧米での標準サイズ)

■用紙について

- ハイグレードコート紙を使用しております。
- 中厚口 220kg 厚さ 0.27mm
- 特厚口 285kg 厚さ 0.35mm

■商品の種類

価格はすべて同じです。

S-BUR	両面シルクコーティング	中厚口
MS-BUR	両面シルクコーティング	特厚口
MC-BUR	両面クリスタルコーティング	特厚口
MCO-BUR	片面クリスタルコーティング	特厚口

触れた瞬間に差がつく、コーティングを施した
高品質カラー名刺が

500枚で4,800円

サンプル差し上げます!



詳しくは…

<http://www.kbsjapan.com/print/>

■料金表(完全データ入稿)

サイズ	色	500枚	1000枚	2000枚	3000枚	4000枚	5000枚
90×54 or 89×51 (mm)	4c/0c	4,800円	6,300円	10,400円	14,900円	19,700円	24,500円
	4c/1c	4,800円	6,300円	10,400円	14,900円	19,700円	24,500円
	4c/4c	6,000円	7,900円	13,000円	18,600円	24,600円	30,600円

(消費税込・送料別)

■納期

韓国より EMS 便または DHL 便にて6～8日以内にお届けします。

■送料

全国一律 2,500円(韓国より EMS 便または DHL 便にて直送)。20,000円以上のご注文で送料無料。